

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 黒川基裕	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 1－1. 研究成果 科学研究費を受けている研究テーマである「途上国における産業デザイン人材育成モデルの構築研究」の推進を中心として、途上国のクリエイティブ産業研究、産業デザイン人材の育成研究に取り組んだ。昨年度より実証実験を行っていたタイ国の Silpakorn 大学・工芸学部とは、改善点を修正して 2 度目のトライを実施した。それに加えて、新たなコラボレータとして Kasetsart 大学・工学部の Panumas 准教授との関係構築を進め、2015 年 1 月から同学部で商品企画のカリキュラム試行のトライを実践した。この実証実験では、講義の最終成果として提出される学生の商品企画案の評価ではなく、新たに開発した商品企画人材の育成カリキュラムの試行が重視されている点で、Silpakorn 大学のものより一歩踏み込んだものとなった。人材育成モデルとして、カリキュラム、能力測定指標、検定制度という 3 点の確立を目指すことを基準に考えると、大きく進捗した。 一方、継続して取り組んでいる自動車産業研究については、プログラム立案からフォローを続けている経済産業省の TAHRDIP（タイ自動車産業人材育成インスティテュートプロジェクト）の実施状況について、現地で継続的に調査した。複数の人材育成プログラムが並行して進められている中で、製品開発人材育成（VE 教育）に焦点を合わせ、派遣専門家へのヒアリングや講義の観察などを実施した。また上記のクリエイティブ人材育成研究との連携可能性や TAHRDIP 全体の状況について、JETRO バンコック事務所へのヒアリングも実施した。 1－2. 社会貢献 一般財団法人・国際貿易投資研究所が受託した調査研究事業である「中小企業の参入を促す BOP ビジネスモデルの調査」研究会のメンバーとして事業に参加し、これまで蓄積してきた BOP ビジネスに関する知見を提供してきた。研究会での成果は、下記の報告書の中で公表されている。中小企業の制約という観点から、それを補完するための公的な支援について検討したが、BOP のみならず中小企業の海外展開全般の支援に活用可能な成果に発展できるよう、中小企業経営者へのヒアリングを継続していきたい。 黒川基裕（2015）「ローカル市場へのアクセス改善とグローバル人材の補完」、国際貿易投資研究所『中小企業の参入を促す BOP ビジネスモデルの調査報告書』ITI 調査研究シリーズ No.6：50－63（http://www.iti.or.jp/report_06.pdf） また、本年度より同研究所の客員研究員に就任し、今後も機関誌への執筆などを通して研究成果を広く公表していく予定である。 3 期目となった有限会社ハンサの取締役としては、引き続き途上国のマーケティング調査、商品企画に関する知見を提供した。また、中小企業の途上国進出に関するコンサルティング業務の事業拡大を支援し、今後ニーズが高まるといわれる地方の中小企業の国際化という局面で提供可能なサービスの可能性を模索した。 1－3. 教育の質的向上	

前年度に引き続き、アンケート調査の結果などを反映しながら講義内容の改善を進めた。また、演習に関しては、学生のプロジェクトへの取り組みと就職活動支援との関係性を検討し、プロジェクト参画がコミュニケーション能力の形成につながるような仕組みを部分的に導入した。また、商品企画・デザイン領域の能力構築を中心としていくことを念頭において、クリエイティブ能力を高める教材を開発し、それを用いたトレーニングの機会を増加させた。

2 その他の事項

学内では、教務委員、教職課程運営委員、地域政策学部職域代表者を務めた。

3 次年度以降の計画・抱負

2015年度は、前年度に実施することが難しかった自動車産業研究について、タイ国を含め、ミャンマー、ベトナムの事例も含めて推進していく。また、そのための研究費の確保にも努める。

クリエイティブ産業研究については、前年度までの商品企画分野の教材づくりが進展したため、引き続き改善したカリキュラムでのトライを継続させる。実証実験の場としては、これまでのコラボレータである Silpakorn 大学、Kasetset 大学に加え、職業訓練機関である TPA (Technology Promotion Association) での講座立ち上げについて交渉を進展させる。そのような取り組みを通じて、研究成果としての人材育成モデルの補強と利用促進を進めていきたい。また、科研費で実施されている本研究は、2016年度末で終了となるため、その後の周辺国展開について、ミャンマー、ベトナム、マレーシアなどを視野に入れて検討を開始する。